追悼　多田武彦先生

多田武彦先生が去る 2017 年 12 月 12 日に亡くなられました。87 歳でした。

多田さんと弦楽セレナーデ

福本　喬（1961 年卒）

1961 年（S36）グリークラブ卒業の 61 会メンバーはラッキーな四年間でした。

一年生で「富士山」「柳河風俗詩」の抜粋を習い、今も口遊む名曲との出会いで始まり、二年生では「中勘助の詩から」の本邦初演（指揮　根津　弘）でした。その当時グリーメン三年生に多田さんの弟勝彦さんが在籍して居り、根律さんが彼を通じて作曲依頼されたと聴きました。リサイタルの初演前の練習時に多田さんが来院下さり、作曲意図やイメージを話されたのを記憶しています。そして三年生で「雪明りの路」初演（指揮　上木　義和）。誕生の経緯も似たものと推察されるが２曲共ご存知の如き名曲中の名曲。東西四連、演奏旅行等でも大好評で誇らしいものでした。

で、我々四年生としてスタートすると、指揮者時枝康郎さん（三年生）が 3 度目の新曲をお願いしたい、ついては私に使者のご指命となりました。当時マネージャーであり、東西四連当番校とグリー単独東京リサイタル準備で出張多く、つい安易に引き受けました。

日曜日午前アポを取り東京板橋駅近くのマンションに多田さんを訪ねました。ピアノのある応接間で依頼主旨説明を終えると、多田さんがチャイコフスキー「弦楽セレナーデ」のスコアとレコードを出してこられ、私にスコアを開きレコードをかけ、初めの付点四分音 3 ッにはアクセントがあるが一つ一つ表情が違うでしよ、一音の長さも違う、3 小節目の付点四分は…前 2 曲の組曲は関学トーンの上に音楽表現を加えてもらうべく作曲した。だから今度は関学に無かったものを増やす為に云々と…

私はシマッタと思いました。ミスキャストも甚だしい。この場は指揮者が居るべきだった。でも手遅れ、作曲依頼の快諾を得たものの、この大切な話を忘れず皆んなに伝えねばならぬ。貴任重大。帰宅後直ちに楽器店へ行き同じレコードとスコア買って、前半部分を何度も聴き復習しました。そして練習場中央講堂で多田さんに教えられた話を伝えましたが、全員キヨトンとしていた印象でした。

己の音楽の才の無さを思い知らされたものでした。声楽以外の唯一のスコアを見る度に、多田さんにご免なさいと思うばかりです。

今ひとつ想い出すのは、多田さん勤務先の富士銀行（現みずほ）丸の内本店に行った時、昼食をご馳走になっている広い行員食堂で 1960 年コンクール課題曲 4 小節目のメロディーを歌い出され、廻りの人も振り返る程の音量でした。私はああ芸術家だなあと感じ入った次第でした。その曲はその年の課題曲「雨の来る前」の一節で、ご子息が（4～5 才？）窓辺で歌ったのがヒントになったとおっしゃいました。余程嬉しかったのかなあ。我々はこの曲を歌い優勝。駄足。後に組曲「雨」第一曲となりました。（伊藤　整　詩）3 度目の新曲は「航海詩集」（丸山　薫　詩）で 1961 年 1 月リサイタルで初演。夏の単独 KG グリーリサイタル時、「雪明りの路」東京初演に、神田共立講堂へ伊藤　整さんが来て下さいますと連絡したら、大変喜ばれ「私が取り上げて作曲した詩人で直接お会いするのは初めてです」とおっしゃっていました。お二人はどんな会話をなさったのだろう。

私は現役時代にお会いしてからずうっと今日迄「多田さんは詩人」だと思って来ました。あれだけ素晴らしい詩を見付け出せるのは、詩心に溢れているからだと。

誰の心もつかまえて、一生忘れられないメロディーの数々を与えてくれる作曲家が逝ってしまった。何げに出てくるタダタケメロディー。男声合唱をかじった人には何日迄もタダタケと一緒に居られる我等は幸せ。

多田武彦先生ありがとうございました。

「尾崎喜八の詩から」への思い、多田武彦先生への想い

桂木英明（1975 年卒）

1 「尾崎喜八の詩から」との出会い

昭和 50 年（1975）に多田武彦氏作曲の「尾崎喜八の詩から」を北村先生の指揮で初演しました。私には思い出深い初演でありこの曲はその後の人生に少なからず関わりを持つことになります。

私事で恐縮ですが私が 4 年生の時に就職活動をした折、就活候補先の一つに富士銀行（現みずほ銀行）がありました。ある時富士銀行の人事担当者から「堺支店の多田武彦支店長が関学グリーに曲を書いてあげようと仰っている」という信じがたい話を伝えられました。神様のような存在の方が私のグリー在籍中に曲を書いてくださるという夢のような話でした。ただし事は就職という一生の話で即答はできませんでした。富士銀行に就職する事になり曲を書いていただいたのですが、謝礼のお金が問題でした。予期せぬ支払いが生じますので当時の部長と会計の二人に事情を話し、なんとかならないかと相談を持ち掛けました。二人は快諾してくれましたが実際のところやりくりは大変だったと思います。今更ながら彼らには感謝しています。その年の 7 月に曲が出来上がったという連絡で堺支店に楽譜を取りに行きました。支店長室に通され多田支店長から「出来あがったばかりの直筆の楽譜」を渡していただきました。新しい楽譜を手にとった時の感動と「尾崎喜八」って誰なのだろうという素朴な疑問を抱いたことを鮮明に覚えています。

「尾崎喜八の詩から J という曲をいただきましたので北村先生に指揮のお願いをしなくてはなりません。楽譜をいただいたのが 7 月でリサイタルは翌年の 1 月、北村先生はリサイタルの曲を決めておられていたタイミングだと思いました。グリーホールの入り口で先生に恐る恐る「私の個人的事情で多田武彦さんに作曲を依頼することになり、その曲を先生にリサイタルで初演していただきたいと思います。」と正直にお願いしました。北村先生は分かったと仰って下さいましたが内心どう思っておられたのかは今となっては知る由もありません。「急にお願いして申し訳ありません」という気持ちでいっぱいでした。

大阪フェスティバルホールでのリサイタルには多田武彦さんも聴きに来られ、尾崎喜八先生は直近にお亡くなりになられていたのですが奥様かあるいは関係者の方が聴きに来られたと記憶していますが…。

2 「尾崎喜八の詩から」の評判を聞いて

関学を卒業後は合唱活動とは無縁の生活でした。あの 4 年間で燃え尽きてもう合唱活動はしないのではないかと思っていました。

ところが卒業後 30 年以上経った 55 歳過ぎから定年後の事が気になり始めて、現役と新月会の合同ステージに参加し始めました。何回か参加しているうちに「尾崎喜八の詩から」が合唱コンクールの課題曲になったとか、多くの男声合唱団で歌われているということを耳した時に、「それは良かった」と正直喜びました。何故なら「尾崎喜八の詩から」は盛り上がりに少し欠けていたという印象がありその後はあまり歌われないだろうと密かに思っていたからです。そうではなかったと間いて本当に良かったと思いました。そこで多田武彦氏から頂いた原譜を長い間保有していましたがその折にグリークラブに寄贈させていただきました。

3 再びの「尾崎喜八の詩から」への関わり

還暦を過ぎてからの東京勤務の折にグリーOB の方々 30 名が、2012 年に小樽市の「伊藤整記念館」を訪問して、初演した「雪明りの路 J を歌ってきたという話を耳にしました。

我々の代も同じことができるのではないかという思いが募り、初演メンバーだけで演奏会を持とうと考えました。この辺の事情は以前に新月会ニュースに掲載させていただきましたが、結果として 2014 年に長野県富士見町の「富士見高原詩のフォーラム」に参加して「尾崎喜八の詩から」を演奏することができました。地元新間にも取り上げられ大成功でした。この件は多田武彦氏にも伝わったと間いています。

4 更なる飛躍へ

富士見町での「尾崎喜八の詩から」の演奏後、同じメンバーの有志で新たなコーラスグループ「ベオーネ」を 2015 年に立ち上げました。昔懐かしい日本のヒット曲を中心に歌うアカペラの男声合唱グループで 2016 年 11 月に第一回コンサートを兵庫県立芸術文化センター小ホールで開催、第二回コンサートも今年 3 月に同じく兵庫県立芸術文化センター小ホールで開催します。また 2019 年 8 月には再び長野県富士見町の「富士見高原詩のフォーラム」に参加して初演メンバーによる「尾崎喜八の詩から」を再演する予定です。

今振り返ると多田武彦氏作曲の「尾崎喜八の詩から」に巡り合えたことは私の人生に大きな影響を与えて下さったと言っても過言ではないと思います。多田武彦氏の御好意に対して今となっては感謝の言葉しかありません。

多田武彦氏のご冥福をお祈り申し上げると共に尾崎喜八先生にも感謝の言葉を添えたいと思います。